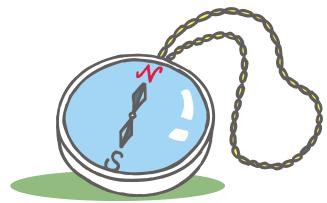


# 羅針盤



第 10 号 令和3年(2021年)6月14日(月)

## ◆ 諦(あきら)める一歩先に必ず宝がある

「諦(あきら)める一歩先に必ず宝がある」、これはアメリカ・バージニア州出身の自己啓発作家であり、教育者でもあったナポレオン・ヒルが残した言葉です。彼は、「成功哲学」の祖として世界的に知られている人物で、代表的な著書である『思考は現実化する』は全世界で7000万部以上の売り上げがあり、多くの人々のバイブルとして読み続けられているそうです。人間は、誰もが、何度も失敗を繰り返しながら、大きく成長していくものです。失敗や逆境の中から、自分の成長につながるものを見つけることが大事なことであるとナポレオン・ヒルは言います。彼が言うところの「最高のチャンス」は、逆境のときにこそ訪れるそうです。しかし、そのこと自体に気がつくことは難しいことかもしれません。心の中に限界を決めない限り、必ずやいつかは自分が待ち望んでいる成功が訪れるという彼の言葉は、目的に向けて自ら率先して行動すること、つまりは、決して諦めることなく前へ進み続けること、その先には必ずや素晴らしい結果が待ち受けていると言います。やるべきことを先送りすることなく、自分が立てた計画がもし失敗に終わってしまっても、失敗してしまった計画に勝るだけの新しい計画をつくり続ける粘りが必要であることを説いています。自分が立てた目的を成功へと導くためには、誰にとっても同じ、「諦めない気持ち」に勝るものはないようです。彼が投げかけてくれたこの言葉から少しでも多くのことを生徒の皆さんにも学んでもらいたいと思います。



## ◆ カブトムシの常識を覆した論文

埼玉県に住む小学校6年生の柴田亮さんが、山口大学の講師小島涉さんとのコラボで執筆した論文が、世界的な生物専門誌に学術的な論文として掲載されました。彼の素朴な疑問から始まったカブトムシの観察が、夜行性とされてきたカブトムシの活動リズムの常識を覆す発見へとつながりました。柴田さんの家の木にカブトムシが集まり始めたのは2019年だそうです。カブトムシの習性として、日没後に樹液を求めてクヌギなどの木に集まり、夜が明ける頃には飛び立ってしまうことを知っていた柴田さんは、自宅の庭の木には昼間になんでもカブトムシがいることを不思議に思い、4年生の夏の自由研究として取り組んだそうです。彼の庭の木は、東南アジア原産の植物シマトリネコだったそうで、日本では街路樹などにも使われていますが、「樹液がおいしいからだろう」と考えた彼にも理由がわかりませんでした。その後、図書館にある本を読み調べる中で、シマトリネコには昼間もカブトムシがいることの記述を見つけ、著者である動物生態学の研究者小島さんと母親が連絡を取り、交流が始まりました。膨大な観察結果から、日本のカブトムシが外来植物と出会ったことで、本来なかった習性が引き起こされたことが分かり、小学生の彼がカブトムシの生態をめぐる大発見をしたことに、専門家も「称賛に値する」と舌を巻くほどの出来事となりました。発見、そして、探求、それは努力の結晶の成果だと思います。